
十字架背負う花天使達（未来外伝）

蓮千里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

十字架背負う花天使達（未来外伝）

【NNコード】

N4698A

【作者名】

蓮千里

【あらすじ】

本編終了後、ディックジルの説明に呆気に取られる花天使達。対の存在達も非難の嵐。

(前書き)

敵を欺くには、まず味方から

「それにしてもイングル、やつてくれたな

ケインがリリーの横で寝そべって悪態をつく。

戦いが終わった今、対の存在である彼等（イングル、ケイン、リリー、レミ）は

ティアラ達と離れて話していた。

「何がだ？ ケイン」

すっとほけるイングル。

「俺達全員に嘘ついてただろーがああああ

ケインの言ひ分は最もだった。

ティアラとイングルは、蒼霞純歌のことを

一言たりとも誰にも話してなかつたのだから。

「話す必要、ないだろ？ が

けろりんば、というイングルの顔。

「……………」

『ノルマニカ』

「どの口だ!」

ケインに両頬を引っ張られ、リリーに蹴飛ばされ、レーリーに十字固めされる

イングル。

声に出せない悲鳴をあげるイングル・ジプソフイラだつた。

大大大

「それにしても、いつから交信とつてたわけ？ジルとディックは」

兄デイヴとジルを交互に見つめ、仁王立ちするティアラ。

「え、えとですね」

「いや、その……さ、最初から」

ジルヒティックが、しじみどろに発言する。

「え、じゃあ、ジルは最初から知つてたの？！」

「ディックは『眠る花』でタヌキ寝入りしてたのかよ？！」

セラフィンとハンスが同時に声を出す。

「…………マジ？」

絶句するクリス。

「俺が透視能力をコントロールできなかつたのは知つてるだろ？」

とジル・パーシカリア。

「コントロールできたのは、地上に来てからだ。

それに…… ジルには、いろいろ隠せないんだよ。ジルとクルルは俺の隠し事は簡抜けだ」

苦笑するディック。

「あれは、剥奪されし者の勢力が増し始めた頃のことだった

」

遠い目をしたディックが昔話を語り始める

＊＊＊＊

「シーナのリーナスが強まってる?」

ティアラとイングルがリーナス向上練習に行つた後、ディックは胸騒ぎを確かに感じた。

そして、その主は自分の対の存在のシーナ・クローバーに間違いなかつた。

「俺が……俺があいつを見捨てて、抜け出したからか?」

俺を愛しているのを知つてて、アイツを犠牲にしたから……?」

ディックは知つていた。

シーナが自分を愛していることに。

だが、シーナは知つていたはずだ。

ディックは、シーナをそういう対象で見れないことに。

彼が抜け出したがつてていることに……!

ディックは真相を突き止めたかった。

セヒー、指令がタイミングよく届けられたのだ。

ティアラとイングルの記憶を消すと彼は家を出た。

「どー、行くんだよ」

ジルの声が真上から聞こえた。

「…………なんでもお見通しだな。」

生まれつきの能力とはいって、見えたり聞こえたりするからって

「

「ティアラの記憶も消したのか？お前の妹…………いや、『恋人の』記憶まで」

呆れた表情をしていたティックがジルの言葉で目を見開く。

「俺だつて…………したくなかったさ」

目を伏せ、力なくティックが答える。

「でも、やうなきゃ、アイツがティアラが悲しい思いをするだけだ」

「……死ぬかもしれないから?」

「ああ」

ジルの問いに短く即答するティック。

2人の間に緊張が走る

「持つてけ、これ」

懐からジルが紅の石を取り出し、ティックに突き出す。

「なんじゅ」「りゅ」

「それがあれば、きっと大丈夫。死はない。それに、俺と交信できる」

唚然とするティックに笑いかけるジル。

「俺は『念』のリーナスが得意なの、知ってるだろ?……行って来い」

紅の石をティックに握らせ、背中をポンと叩くジル。

「行ってくる」

そう言つて彼等は、じばしの別れを告げた。

* * * *

「ま、こんなとこ。全くこいつがこるところがない」とがありやしない

「ちよつと待て。誰のおかげで交信とれてたと?」

ジルとティックがにらみ合ひ。

「おこ、2人とも」

クリスが後ろを指差す。

「ティアラがいじけてるよ」

とハンス。

「誰かに……大切な人に記憶を消されたんだもんねえ」

非難の目をしながらセラフイン。

「そうだった」

ティックは立ち上がり、ティアラの元へと近づいていく

(未完待續) END

(後書き)

秘密とこつても、こつかはボロッと出でこまつものだと想つし、話さなければならぬときがくるたゞやないかと思ひ気持から書いてみた作品です。

では、ラスト外伝、未来編も書きますね。

また、お会いできるのを祈りつつ……

Rue

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4698a/>

十字架背負う花天使達（未来外伝）

2010年12月18日14時52分発行